

経営比較分析表（令和4年度決算）

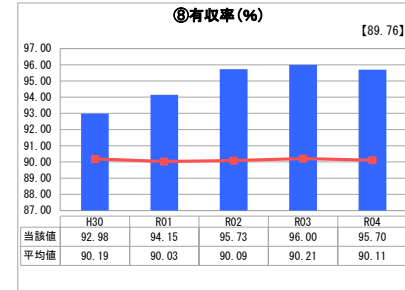
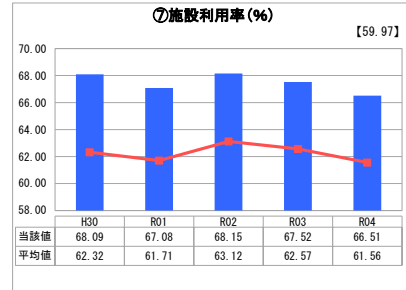
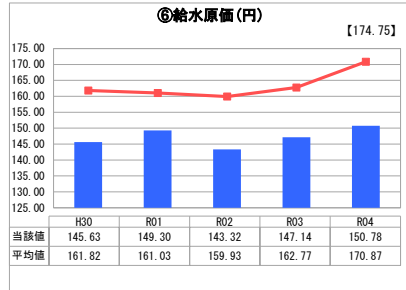
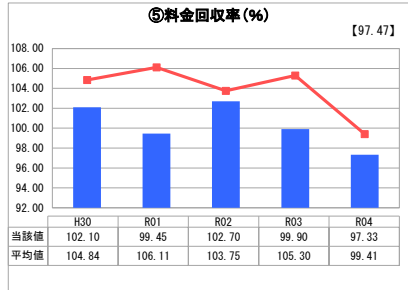
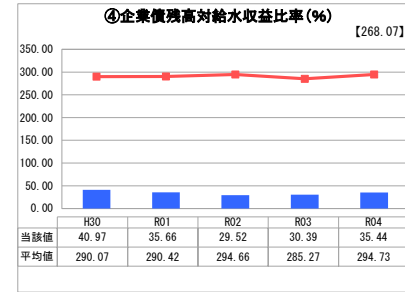
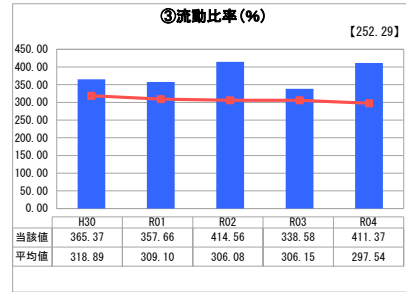
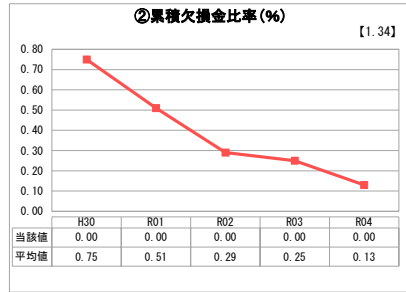
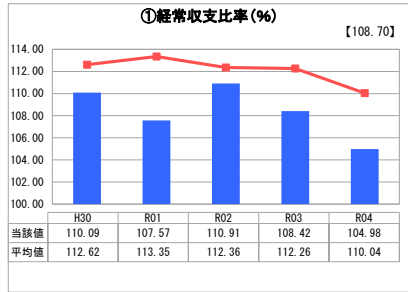
埼玉県 草加市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.46	100.00	2,475	

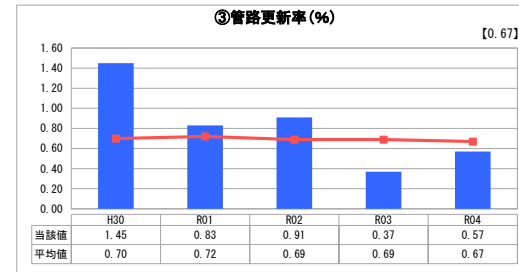
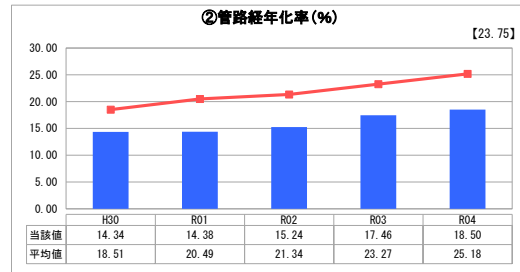
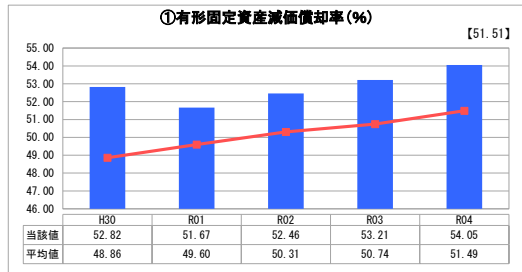
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
250,966	27.46	9,139.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
250,977	27.46	9,139.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営状態については類似団体と比べ、⑥給水原価は大きく下回り、⑧有収率も高く、⑦施設利用率も高水準を維持していることから、効率的な運営を継続することができていると言える。

しかし、電力料金の高騰や減価償却費等の上昇により⑥給水原価が前年度と比較して上昇したことに加え、節水型機器の普及などにより供給単価が減少傾向にあることが影響し、2か年連続で⑤料金回収率が100%を下回った。①経常収支比率については100%を超過しているものの、前年度と比較して減少していることから、今後も費用削減の努力を続けていかなければならない。

④企業債残高対給水収益比率は類似団体と比べ非常に低値となっている。しかし、令和3年度より20年ぶりに企業債の借入を再開しており、今後は更に設備更新の費用増が見込まれる。令和4年度の③流動比率は前年度比で増加しているものの、繰越工事の増加によるもので、企業債の借入は引き続き行っていく必要があり、企業債残高は増加傾向となる見込みである。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率は平成27年度に策定した基幹管路の更新計画により耐震化事業を推進しているが、近年は施設の耐震化事業等に注力しているため耐震更新率が伸びず、2か年連続で類似団体を下回っている。

②管路経年率は類似団体を下回っているが、①有形固定資産減価償却率は類似団体より高い値となっており、施設の老朽化度合の改善を図るほどには至っていない。

将来の水需要及び財政状況を鑑み、浄水場耐震化事業等で大きな費用増が見込まれることから計画的かつ効率的に施設整備を推進していく必要がある。

全体総括

草加市の水道事業の経営状況については、現況では健全な経営が行われているものの、老朽化施設の更新や耐震化事業等への投資は増加していく見込みであり、その財源として企業債(借入)の借入は必要不可欠であることから、今後も継続して借入し続けなければならない。また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で給水収益が特異値となったが、経常収支比率や料金回収率が近年低下傾向であることが課題となっており、安定した財源の確保が必須となっている。

水道事業ビジョン(経営戦略)の中で将来的な収支ギャップを解消する取組として挙げられている、水道料金の検討、水道施設の効率的・効果的な更新、水道施設のダウンサイジング等を具体化しながら適切な事業運営を推進していく。